

●認定NPOキャリア権推進ネット
ティール組織をテーマに
第5回コロッキアム開催

認定NPO法人キャリア権推進ネットワーク（諏訪康雄理事長）は、令和元年9月17日、株式会社ライフワークス（東京都・港区）にて「ティール組織」（自律的組織）をテーマに「第5回キャリア・コロッキアム」を開催した（事務局・株式会社ウイル）。

「キャリア・コロッキアム」（以下「コロッ

キアム」では、経営や人事労務に関する世の中の動きの最先端に近いテーマを設定し多彩な講師を招いている。前半は基調講演、後半はその基調講演を踏まえたテーマを参加者がグループごとに検証して結果を発表するという体験型講座を開催している。

第5回の講師は、ティール組織を推進する一般社団法人自然経営研究会の代表理事を務め、株式会社Salt代表取締役、経営コンサルタントでもある島青志氏。

島氏は、全世界で20万部を売り上げている『ティール組織』の著者フレデリック・ラルー氏との記念写真を公開するなどして会場をわかせた後、「ティール組織」（自律的組織）について、数々の事例やキーワード、キーセンテンスを交えて解説した。

島氏によると、現在の日本企業の多くがオレンジ組織（機械的組織）であり、その次に来る組織がグリーン組織（家族的組織）、例えば、法政大学の坂本光司教授の「日本でいちばん大切にしたい会社」のような会社であり、その次に来るのが青緑色の組織を意味する「ティール組織」であるという。

「ティール組織」は、信頼で結びついて、指示命令系統がないことが特徴だが、「組織構造がない、階層構造がない、全てがコンセンサスで決まる」というのは、自律的組織の3つの誤解であるとのこと。

そして、「ティール組織の突破口」として、自主経営、全体性（自分だけでなく全



▲「ティール組織の3つの突破口」を語る島氏。

体をみる)、存在目的（組織の理念、目的に共鳴すること。ただし作られた経営理念とは異なる）——の3つを示した。

島氏は、日本におけるティール組織の度合いが高いと思われる25社のアンケート結果も発表。参加者からは、「25社の選び方は」、「ティール組織では、個人の資質や能力は問われないのか」などの質問が出ていた。

後半のグループワークの開始に当たって、諏訪理事長は、「社員に任せるから会社は進化する 日本版「ティール組織」で黒字になる経営の仕組み』の著者・株式会社日本レーザー 近藤宣之代表取締役会長の話を紹介した。株式会社日本レーザー（東京都・新宿区。本誌第1806号（2014年1月1日・11日付）「新春企業訪問」に掲載）では、ティール組織の概念が提唱される以前からよく似た自律的組織を構築してきたという。

グループワークでは、「日本経営は『ティール組織』に近づいていくか？近未来の日本の組織はどのようになりそうか？」などをテーマに検証が行われ、グループの代表による発表では、「イノベティブ、クリエイティブな業界なら」、「安全、確実に保証する業界は厳しい」、「価値観・理念で自主的に動いていくことが必要」、「企業としても魅力を高めるのに取り入れていくのが良いのでは」——などの意見が出ていた。

コロッキアムの締めくくりに諏訪理事長は、「ティール組織が今後、伸びていくかは、ティールをしたら我が社はすごい利益を挙げた！あるいは次々従業員が大きな仕事をしていった！といった成果やパフォーマンスが影響を与えていくのだろうと思います。今後も意識してみたい分野かと思えます」——などと語った。

第6回の開催は、同NPOのHPに告知される予定（<http://www.career-ken.org/>）。